

令和4年11月22日

葉山町議会
議長 待寺 真司 様

葉山町子どもの笑顔を守る会
代表 塩川 直子

〒240-0116 神奈川県葉山町下山口1523-1
TEL.080-4002-6678

学校給食時における「黙食ルールの見直し」を求める陳情

【陳情趣旨】

「新型コロナウイルス」による混乱の中、現在の葉山町の学校給食時では、この3年間ずっと「黙食」が励行されてきました。コロナウイルス株がどんどん変異し、その都度、政府主導で様々な政策が取られてきましたが、現状では、経済活動の活性化を狙ったコロナ禍での第2弾となる旅行支援が実施されており、各地で賑わいを取り戻しつつあります。また、その流れを汲んでか、飲食店等(特に夜の酒場)では、大人が普通に食事やお酒を飲みながら会話を楽しむようになりました。

しかし、葉山の小・中学校に通う子ども達は、未だに無言のまま、まるでロボットのように口に食物を運ぶだけの時間を送っています。

子どもから「大人は普通に会話しながらお酒を飲んだり、わいわい食事をしているのに、どうして僕たちはたった30分程度の給食を黙って食べないといけないの?」と問われても、納得させられるような明確な答えを伝えることは出来ておりません。

先だって開催された、令和4年度葉山町議会第3回定例会での石岡実成議員の一般質問の場で、「黙食を続けている判断基準は?」という質問に対し、教育部長のご答弁は、神奈川県教育委員会が推奨する独自のガイドラインに従って「黙食」を実施しているとの事でした。

そもそも文部科学省では、本年4月に改訂された「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～」内でも、学校給食時における「黙食」は推奨しておらず、会食にあたっては、飛沫を飛ばさないように、例えば、机を向かい合わせにしない、大声での会話を控えるなどの対応が必要です。と明記しています。

加えて、11月8日には、永岡桂子文部科学大臣自らの記者会見で、昼食時に会話をしない、いわゆる「黙食」の指示はしていない。文科省初等中等教育局健康教育・食育課は「文科省として黙食を求めたことは一度もない」と強調し、「黙食を否定することはないが、縛られる必要はない。手洗い・換気などの基本的な感染対策を行う前提で、地域によっていろいろなやり方があっていい」と述べられていました。

最近では、全国の開業医や勤務医等 1,526 人から回答を得た意識調査アンケートによると、全体の医師の 62%、うち 78%の小児科医が「黙食」による指導を見直すべきという見解もあります。(2022 年 7 月 3 日掲載『m3.com 編集部』記事)

また、先進的な自治体では、福岡市教育委員会が本年 6 月 13 日に「黙食」を見直す通知を発表し、メディア等でも取り上げられておりますし、全国各地で「黙食」緩和への動きが出始めております。福岡市では 10 月に受付した黙食を見直した効果についても「黙食緩和の影響で感染拡大が考えられる事例はないということと、子どもたちの笑顔も多く見られるようになってきた」と HP に記載があります。(福岡市ホームページ参照)

学校給食は、友達とのコミュニケーションの場であったり、苦手なモノへのチャレンジの場であったり、食べることが出来た時の達成感であったりと、単なる栄養摂取だけではない、子どもの成長においてとても大きな役割を担う時間なのではないかと思えます。どうか、学校給食の目的でもある真の食育という観点からも、多くの子ども達が笑顔溢れる楽しい時間を再び過ごせますように、議員の皆様からのご支援を賜りたく、貴議会に対し以下の項目について陳情いたします。

【陳情項目】

1. 神奈川県に対し、学校給食における県独自の「黙食」という考え方を撤廃し、少なくとも文部科学省が推奨する指導ラインまで緩和するように意見書の提出を求めます。
2. 葉山町教育委員会としても、町単独で「黙食」に対する考え方を今一度改め、緩和する方向へ真剣に議論を進めることを求めます。

以上

